

ア

ベノミクスの功罪とは何か。評価や総括はこれから行われることになる。が、異次元緩和（量的・質的金融緩和）の象徴であった日銀のバランスシートの現状については、あまり広く認識されていない。

2013年4月から日銀は異次元緩和をスタート、16年頃には、数年以内での物価上昇率2%目標の達成も絶望的となった。このようなか、日銀は16年9月下旬、量から金利を柱とする新たな金融政策の枠組みを導入し、実質的に「異次元緩和」の転換を図った。

それは、10年から20年におけるバランスシートの資産規模やその増加幅などから読み取れる。異次元緩和スタート前の12年は、バランスシートは年間で8・5兆円しか膨張していなかったが、異次元緩和スタート後の13年は年間で55・7兆円も膨張。その後加速し、ピークは政策転換を行った16年で、そのときは91・5兆円も膨張している。

しかしながら、政策転換を行った直後の17年は58・6兆円になり、19年には21・8兆円にまで縮小。

コロナ対策で膨張する 日銀バランスシート 新政権の大きな課題に

数字は語る
法政大学教授
小黒一正

110.2兆円

2020年8月末までの1年間で日銀の
バランスシートが増加した規模

出所：日本銀行「営業毎旬報告」等から筆者算出

これは「こっそり」と異次元緩和の手仕舞いを進めていたことを意味する。日銀のバランスシートの資産（対GDP）も、13年の30・3%から、18年には100・5%に急膨張したものの、19年は103・6%であり、このまま手仕舞いを進めていけば安定化できる可能性があった。

ところが、今年2月以降、新型コロナウイルスが日本や世界を襲った。20年度の国の一般会計における当初予算は約102・6兆円だったが、緊急経済対策の第1次補正予算・第2次補正予算と合わせ、歳出合計は約60兆円増の約160兆円。結果として、バランスシートは再び急膨張しつつある。その象徴が、20年の110・2兆円だ。これは、日銀のバランスシートにおける資産が、19年から20年の1年間で増加した規模を表すが、異次元緩和のピーク時（16年）の91・5兆円よりも大きい値である。新型コロナウイルスの感染拡大が経済を直撃している今、財政・社会保障の改革を行うのは難しいが、その準備を進めておくのが新政権の一つの課題だろう。